

地域の伝統文化における意識の調査 ～世代間における文化の受け止め方に違いはあるのか～

伊藤 慎一・白木 智昭

Survey on Awareness of Local Traditional Culture
～Do different generations perceive tradition differently?～

Shinichi ITO, Tomoaki USUKI

Abstract

This study reports the results of an investigation into how the concept of traditional culture differs by age and gender. Traditional culture is important from the perspective of hometown pride, but its succession is in jeopardy due to population decline. A questionnaire survey was conducted on respondents living in Akita Prefecture, and regression analysis was conducted. The results showed no significant differences by age or gender. Cluster analysis results showed that interest in traditional culture was classified into three clusters. The results showed no significant generational differences in interest in traditional culture, only differences in the number of people interested. Correspondence analysis revealed that men were more interested in experience, while women were more interested in food culture.

Key Word : Traditional culture, Cultural heritage, Regional revitalization Local community

1. 緒言

2022年11月ユネスコ（国連教育科学文化機関）は、日本が提案していた盆踊りや念仏踊りに代表される民俗芸能を「風流踊（ふうりゅうおどり）」として無形文化遺産に登録することを決めた[1]。風流踊として登録が決まったのは24都道府県の41の踊（おどり）であり、その中には秋田の行事である西馬音内（にしもない）盆踊りや毛馬内（けまない）の盆踊りもふくまれる。風流踊はその地域の歴史や風土に支えられ、豊作祈願、厄除け、弔いなどの祈禱・祈願の意味を持ち、地域に土着した文化的財産である。さらに地域社会における風流踊の役割はそれだけにとどまらず、多世代による地域のコミュニティを形成することや地域に帰属意識を与える存在意義、さらには幼少期の原風景を記憶に定着させ、精神的安らぎをもたらす事

も考えられるとユネスコから評価された[2]。彼等の評価のように、地域固有の文化は我々の生活にうるおいを与え、明日への活力を与えるものである。これは世代間の継承により伝わる文化でもある。近年の情報消費社会におけるブームとして理解されているような、対象の媒体に触れることでいつでも情報が入手できる消費の構造とは違い、年に一度の祭事が継承されることで尊敬や期待が紡がれ現代に語り継がれてきた構造によるものである。

一方で、地方都市における人口減少および高齢化は加速化しており、これら文化の継承が危ぶまれている。秋田県では令和3年の高齢化率は全国1位であり、対65歳人口の割合は38.1%である。2045年には対65歳人口比率が50.1%となり、全国で最も早く50%を超えと言われていている[3]。

このような中、伝統的な文化を次世代に継承する事は重要であるものの、その担い手はさらに減少することが予測される。地域固有の伝統など地域に語り継がれている文化は様々存在するが、これらがすべて継承される事はこれからの人口減少社会において難しく、継承すべき文化の選択とその意義の重要性すなわち「残すべき文化」を我々は考えなければならない。

本研究の目的は、伝統的な文化と聞いて持つイメージを調査し、2つの年代の世代を抽出して伝統的文化のイメージギャップを理解し、現在伝統的文化と呼ばれているものがどのように消費者に受け止められているかを調査した。

2. 伝統的文化の外観と先行研究

秋田県には地域固有の文化があり現代に受け継がれている。例えば、きりたんぼやいぶりがっこ、稲庭うどんなど県内外に知られている食文化や、男鹿のナマハゲ、土崎神明社祭の曳山行事、角館祭りのやま行事のような神事、大日堂舞楽（だいにちどうぶがく）のような芸能文化があり、さまざまな定着の歴史を経て地域を構成する重要な要素として現代に伝承されている [4]。地域の文化は民族や社会、団体により継承され、精神的なあり方を示すものである。このような歴史的な存在意義として人間の行動様式に影響を与える文化は、世代を超えてその精神性を受け継ぎ語り継がれている。伝統は有史以降長期的な歴史の中で普遍的なものであるがゆえに現代に伝承される。伝統文化が未来に継承をされることは我々の長い歴史自身が継承される事と等しく、この歴史をつなぐことは文化を次世代に託す意味でも重要である。さらにこれらの文化は秋田県というブランドイメージにおいても重要な役割をしめる。例えば2023年にマイナビ社で行われた「秋田県と言えば、ランキング」の調査では、不特定多数の回答者に「秋田県と言えば何を思いうかべる」という質問に対し、1位きりたんぼ (25.2%)、2位なまはげ (13.9%)、3位、秋田美人 (12.2%)、4位稲庭うどん (9.6%)、5位秋田犬 (6.1%) など、近年のブームによる情報生産されたものではなく、長期的な歴史において形成されているものがイメージとしてされている [5]。これにより、地域固有の伝統文化として語り継がれているものは、外部から見

ても価値を感じやすく、伝統文化そのものが地域のブランドの総体として認知されている可能性があると考えられる。

一方で視点を変えると伝統とは長きにわたる歴史のもと継承されてきたブランドであると言い換えることもできる。特許庁におけるブランドの定義では、ブランドとは長期的な信頼の元で成立し、生産する側と消費する側の相補的な信頼があってこそ成立するものである。一般に商標法におけるブランドは3つの機能、すなわち出所表示機能（だれが作ったものであるかが理解できる）、品質保証機能（生産者への信頼からその品質が担保されるものである）、広告宣伝機能（特定の生産者が生み出した財やサービスである事が価値があることが客観的に理解できる）、が存在する [6]。これを伝統的文化に当てはめると、生産者は特定個人を指すものでは無いかもしれないが、地域における文化的な所産を広義の生産者と定義するのであれば、地域全体を包含し歴史的にその文化を生み出す風土があった地域こそが生産できたものであると言い換えることができる。このように考えると地域における文化は長期的な信頼に依拠した伝統を有するブランドであり、地域や伝承者が長期的な視点で語り継ぐ意義と必要性を何らかの形で具現化したものが伝統的文化として現在に継承されていると考えられる。

伝統的文化の意識における先行研究として、和田 (2017) は広島県における伝統行事である神楽と観光資源についての報告を行っている [7]。これによれば商工団体や行政等が神楽文化に伝統性や娯楽性を見だし観光資源とすることにより消費・活用を望むが文化としての真正性の喪失が問題となっているという側面もあり、観光資源化のメカニズムについて詳細に報告をしており、ブランド化という行為が伝統を守るという行為の相反性について丁寧な対応が必要である事を示している。

また、塩谷 (2003) は、食文化の世代間の継承意識の観点から正月料理がどのように次世代に継承されるかを継承意識、断絶、断絶意識、不安定という4つの概念で分類し、都市部と山漁村部の2つの観点から明らかにした [8]。これによると家庭の世代交代など家族内に変化が起きることで伝統意識の生活価値観が変わり特に都市部ではその傾向が見られる事が明らかとなっている。文化

伝承は世代と居住地域に相関性があることは定説として論じられているが、これらも社会の変化に伴いさらに形を変えていくことは考えられる。

3. 調査研究の概要

本研究では秋田県の20代と60代を対象にアンケート調査をおこなった。伝統的文化の意義および継承と保存について、伝統に関する意識を質問した結果を統計的に解析し、比率と属性を明らかにすることで世代間の違いと意思の差を理解することを目的とした。アンケート調査の概要は以下のとおりである。

3.1 調査対象

株式会社マクロミルによる秋田県内に在住するモニター208名を対象に、2023年12月にインターネットを用いたWebフォームアンケート調査を行った。

3.2 伝統的文化に関する質問項目

伝統的文化の捉え方を明らかにするために、伝統的文化という言葉が持つイメージ12項目について、AB1対質問を用意し、全くそう思わない、そう思わない、どちらかというと思わない、どちらかというと思ふ、そう思う、非常にそう思う、の6件法で回答を得た。

3.3 伝統的文化の接触に関する質問項目

回答者は日頃どのような伝統的文化について触れているのかを理解するために、過去一年間で以下の項目、伝統工芸品の購入／能や歌舞伎など伝統芸能の舞台鑑賞／着物、浴衣など伝統的な着衣を着る／地域に伝わる伝統食と食べる／歴史的な建造物を見に行く／美術館・博物館などに行った事があるかを多答式で質問し回答を得た。

3.4 統計解析

本統計解析を実行するにあたり、単純集計（クロス集計を含む）、因子分析（最尤法、プロマッ

クス回転）、コレスポネンス分析を使用した（統計解析には、IBM SPSS Statics Ver.28およびSPSS Categories Ver.28を用いた）

4. 研究結果

4.2 6件法による20代の伝統文化のイメージの因子分析

伝統的文化に対するイメージを調査するために、秋田県に在住の20代104名に対して、1日本の文化を世界に誇れるか、2文化芸術の体験活動、3文化芸術の経済活動との関係、4文化芸術に国が力を入れて欲しいことの4つの大項目を作成しこれらに関連する12項目の質問について1～6点を与え得点化した後、集計し因子分析を行った。

最尤法、プロマックス回転で因子分析を行った結果、固有値1以上で3つの因子が抽出された。その結果を表2に示す。第1因子は「伝統的文化に自分自身で関わりたい」、「伝統的文化は自分自身にとって身近なものである」、「伝統的文化に積極的に触れたい」、「伝統的文化は近年のブームより価値が高い」の4つで、「伝統的文化体験因子」と命名した。第2因子は「伝統的文化の次世代の継承は重要である」、「日本の伝統的文化は世界に誇れる」、「伝統的な文化を積極的に応援したい」、「伝統的文化の保護に国は力を入れて欲しい」、「子どもに伝統的文化体験をさせる事は重要である」、の5つで、「伝統的文化尊重因子」と命名した。第3因子は「伝統的文化の保護は税金で守るべきである」、「伝統的文化の担い手育成は国の優先施策である」、「伝統的文化の継承には寄附を払っても良い」、の3つで「伝統的文化保全投資因子」と命名した。これらの因子間相関は0.6であり、今般得られた3つの因子にはやや相関性があると考えられる。この結果より、20代世代の中での伝統的文化の捉え方については、想定したほど多様な文化に対する意識の違いは無い可能性があることが理解され、文化そのものに対し、肯定的かつ継承保存していきたいという感情はあると考えられる。

表1 本アンケートの基本属性

性別	男性	女性	年齢	20代	60代
人数	104	102	人数	102	104
(%)	50.0	50.0	(%)	50.0	50.0

表2 20代を対象とした伝統的文化における心理分析

質問項目	Factor1	Fator2	Fator3
Q1S5伝統的な文化に自分自身で関わりたいと感じる	.888	.529	.568
Q1S4伝統的な文化は自分にとって身近なものである	.833	.485	.483
Q1S6伝統的な文化には積極的に触れたい	.819	.630	.674
Q1S9伝統的な文化は近年のブームよりも価値が高い	.690	.521	.635
Q1S2伝統的な文化の次世代への継承は重要である	.540	.888	.524
Q1S1日本の伝統的文化は世界に誇れる	.439	.841	.498
Q1S3伝統的な文化を積極的に応援したい	.741	.825	.569
Q1S10伝統的文化の保護に国は力を入れてほしい	.554	.658	.645
Q1S7子供に伝統的文化体験をさせることは重要である	.595	.638	.528
Q1S11伝統的文化の保護は税金で守るべきである	.493	.483	.811
Q1S12伝統文化の担い手育成は国の優先施策である	.537	.573	.808
Q1S8伝統的な文化継承には寄付を払っても良い	.554	.350	.606
因子間相関	I	II	III
I	-	.640	.666
II	.640	-	.632
III	.666	.632	-

表3 60代を対象とした伝統文化における心理分析

質問項目	Factor1	Fator2	Fator3
Q1S6伝統的な文化は積極的に触れたい	.852	.652	.456
Q1S5伝統的な文化に自分自身で関わりたいと感じる	.826	.504	.269
Q1S8伝統的な文化継承には寄付を払っても良い	.764	.630	.389
Q1S4伝統的な文化は自分にとって身近なものである	.745	.519	.372
Q1S7子供に伝統的文化体験をさせることは重要である	.718	.699	.689
Q1S3伝統的な文化を積極的に応援したい	.695	.643	.677
Q1S11伝統的文化の保護は税金で守るべきである	.654	.930	.461
Q1S12伝統文化の担い手育成は国の優先施策である	.667	.905	.644
Q1S10伝統的文化の保護に国は力を入れてほしい	.543	.761	.553
Q1S9伝統的な文化は近年のブームよりも価値が高い	.544	.631	.500
Q1S2伝統的な文化の次世代への継承は重要である	.373	.544	.886
Q1S1日本の伝統的文化は世界に誇れる	.296	.392	.768
因子間相関	I	II	III
I	-	.723	.512
II	.723	-	.636
III	.512	.636	-

4.3 6件法による60代の伝統文化のイメージの因子分析

次に秋田県に在住の60代の104名に対し前述と同様の項目を作成し、6件法による質問をおこなった。分析については、最尤法、プロマックス回転で因子分析をおこなった。その結果、固有値1以上で3つの因子が抽出された。その結果を表3に示す。第1因子は、「伝統的な文化には積極的に触れたい」、「伝統的な文化に自分自身で関わり

たい」、「伝統的な文化継承には寄付を払っても良い」、「伝統的な文化は自分にとって身近なものである」、「子供に伝統的文化体験をさせることは重要」、「伝統的な文化を積極的に応援したい」、の6つで、「伝統的文化応援因子」と命名した。第2因子は「伝統的文化の保護は税金で守るべきである」、「伝統文化の担い手育成は国の優先施策である」、「伝統的文化の保護に国は力を入れてほしい」、「伝統的な文化は近年のブームよりも価値が

表4 20代と60代を対象とした伝統的文化における心理分析

質問項目	Factor1	Fator2	Fator3
Q1S5伝統的な文化に自分自身に関わりたいと感じる	.884	.414	.520
Q1S6伝統的な文化には積極的に触れたい	.837	.565	.658
Q1S4伝統的な文化は自分にとって身近なものである	.791	.439	.488
Q1S8伝統的な文化継承には寄付を払っても良い	.616	.375	.609
Q1S2伝統的な文化の次世代への継承は重要である	.468	.889	.549
Q1S1日本の伝統的文化は世界に誇れる	.378	.819	.487
Q1S3伝統的な文化を積極的に応援したい	.718	.775	.613
Q1S7子供に伝統的文化体験をさせることは重要である	.627	.660	.596
Q1S11伝統的文化の保護は税金で守るべきである	.526	.497	.869
Q1S12伝統文化の担い手育成は国の優先施策である	.568	.609	.843
Q1S10伝統的文化の保護に国は力を入れてほしい	.527	.641	.713
Q1S9伝統的な文化は近年のブームよりも価値が高い	.583	.531	.645

因子間相関	I	II	III
I	-	.587	.673
II	.673	-	.658
III	.666	.658	-

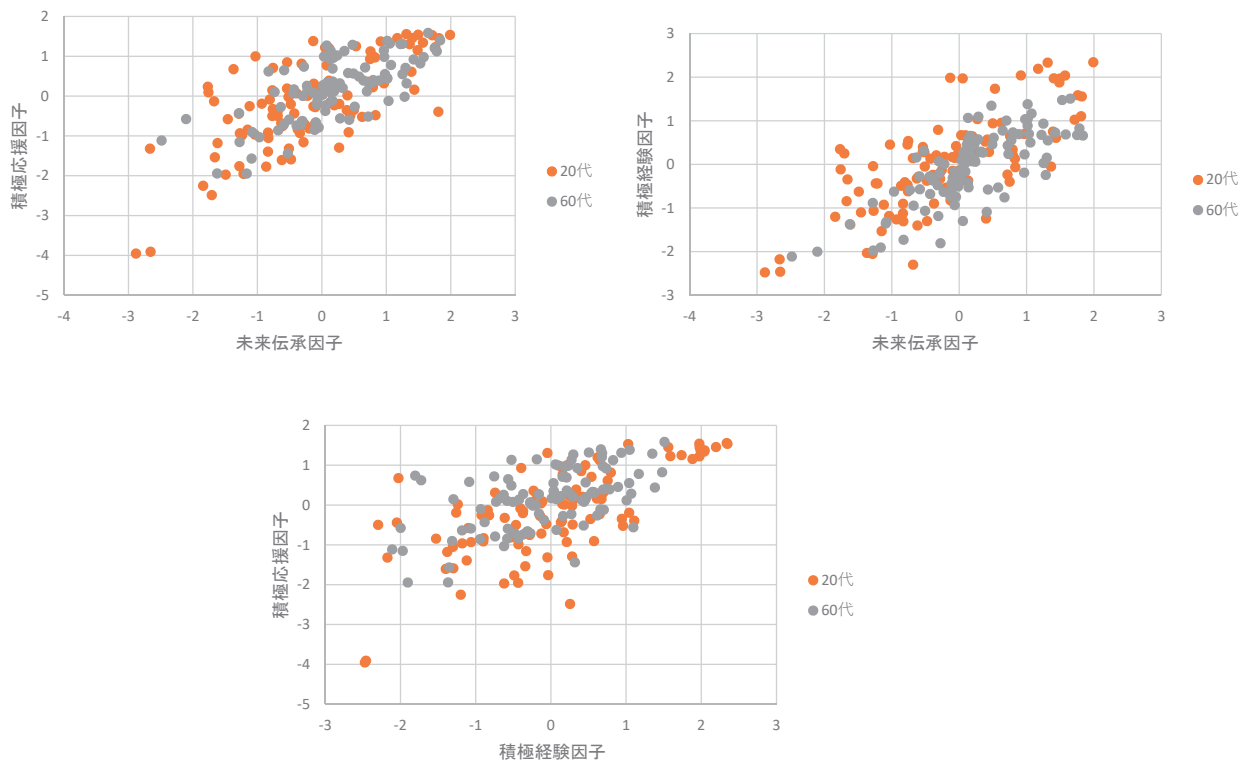


図1 20代および60代の因子負荷行列の散布図

高い」の4つで、「伝統的文化未来への伝承因子」と命名した。第3因子は「伝統的な文化の次世代への継承は重要である」、「日本の伝統的文化は世界に誇れる」の2つで「伝統的文化伝承因子」と命名した。因子間相関は0.5～0.7であり、特に「伝統的文化応援因子」と「伝統的文化未来への伝

承因子」は相関が高く、本因子の関係性については今後さらなる精査が必要であると考えられる。一方で20代の因子間相関の時と同様に同一世代における伝統的文化の伝承保存という考え方に大きな違いは無いと説明できるかも知れない。

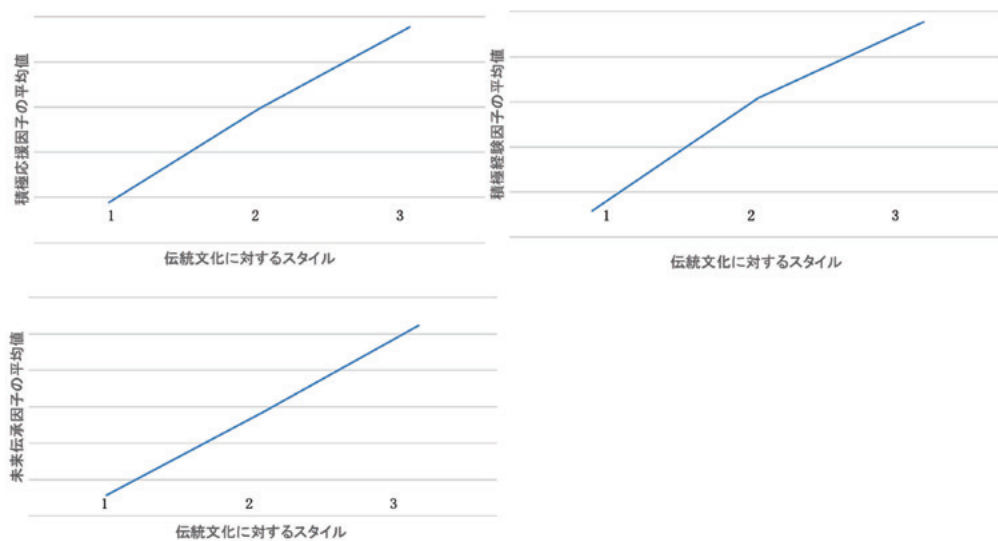


図4 伝統文化に対する各因子のクラスター分析

4.4 6件法による伝統文化のイメージの因子分析

次に先に解析を行った秋田県に在住の20代と60代の208名を一つの因子分析対象として、解析をおこなった。分析についても最尤法、プロマックス回転で因子分析をおこなった結果、固有値1以上で3つの因子が抽出された。その結果を表4に示す。第1因子は伝統的な文化に自分自身に関わりたいと感じる、伝統的な文化には積極的に触れたい、伝統的な文化は自分にとって身近なものである、伝統的な文化継承には寄付を払っても良い、の4つで、「伝統的文化積極経験因子」と命名した。第2因子は「伝統的な文化の次世代への継承は重要である」、「日本の伝統的文化は世界に誇れる」、「伝統的な文化を積極的に応援したい」、「子供に伝統的文化体験をさせることは重要である」、の4つで、「伝統的文化積極応援因子」と命名した。第3因子は、「伝統的文化の保護は税金で守るべきである」、「伝統文化の担い手育成は国の優先施策である」、「伝統的文化の保護に国は力を入れてほしい」、「伝統的な文化は近年のブームよりも価値が高い」、の4つで「伝統的文化未来伝承因子」と命名した。因子間相関は0.5～0.6であり、今般得られた3つの因子にはやや相関性があると考えられる。さらにこれらの因子において、年代に差があるのか、また性別に差があるのかを明らかにするために、因子分析で得られた因子得点行列計算し、それぞれ伝統的文化積極経験

因子、伝統的文化積極応援因子、伝統的文化未来伝承因子の3つにおいて、それぞれ2次元の散布図で示した。因子得点は因子負荷量による係数と分析元データにある個別のケースとの積を計算したもので、この係数を因子得点係数行列と呼ぶ。図1に、伝統的文化積極経験因子、伝統的文化積極応援因子、伝統的文化未来伝承因子の世代間の因子得点係数行列を示す。本結果においても、年齢及び性別によって因子得点係数行列の大きな差は無く、本調査の範囲において、伝統的文化に対する考え方は、年代、性別における説明変数が、伝統的文化の考え方に大きな違いを与えるものには無い事が明らかとなった。

5.3 伝統的文化における関心時のクラスター分析

以上の結果より、伝統的文化に対するイメージの年代、性別の考え方の違いが見られなかったため、クラスター分析による伝統的文化へのスタンスを明らかにする事とした。Word法でユークリッド平均距離による階層クラスタ分析をおこなったところ、3つのクラスタを得た。第1クラスタには46名、第2クラスタには105名、第3クラスタには57名の調査対象が含まれていた。さらにTurkeyのHSD法(5%水準)による多重比較を行った結果を図4に示す。すべての因子において第1クラスタ<第2クラスタ<第3クラスタ

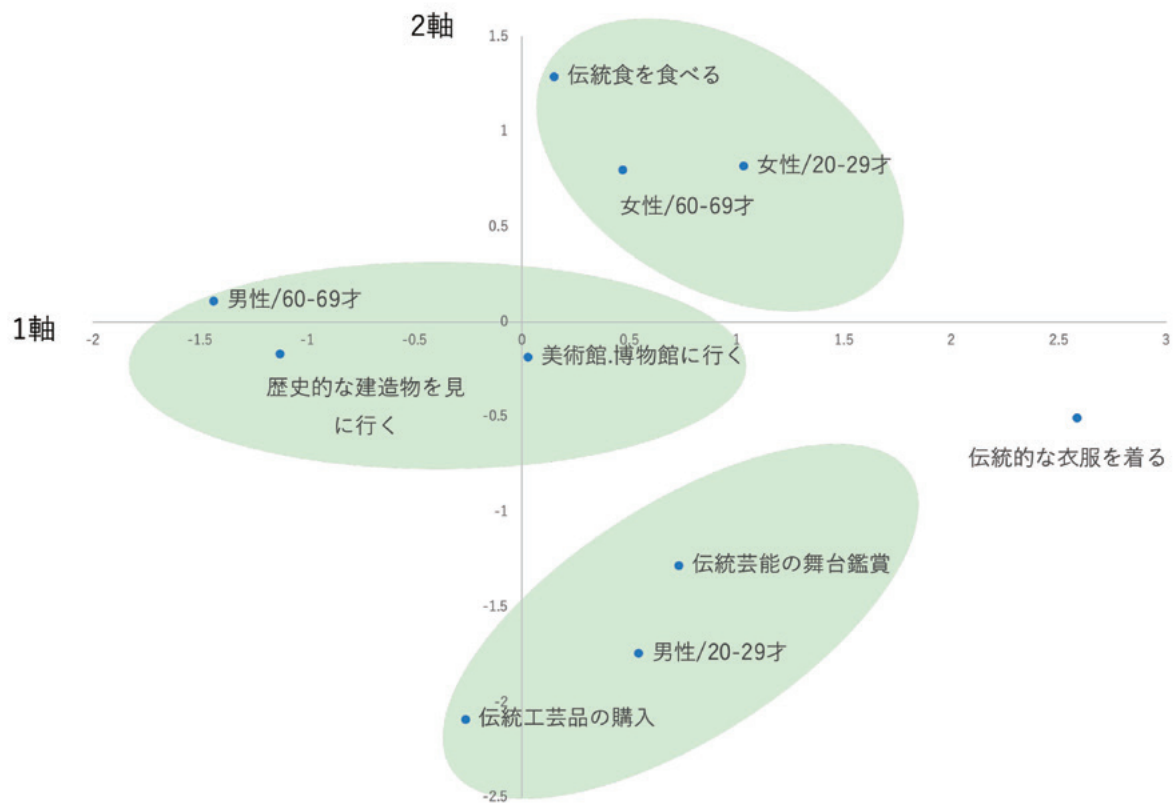


図5 伝統的文化に対する年代性別毎のコレスポネンス分析

タという結果が得られた。これは伝統的文化そのものに対する意識の差である。伝統的文化に対して感心が薄いスタイル<伝統的文化に対して中程度の感心を持つスタイル<伝統的文化に対して高い関心を持つスタイルの3つに分けられた、これらに属するクラスター分布はそれぞれ22.1%、50.5%、27.4%であった。

この結果は世代には依拠しないものの、伝統的文化に対し関心を示す割合が上記のように分散している事を示す。この度の調査では世代には関係が無く、この2世代において関心が低い層と高い層が一定の割合でいることが示された。

5.4 年代・性別と伝統的文化のコレスポネンス分析

次に伝統的文化にどのように接触したかを明らかにするため、過去1年間で伝統的文化に触れた経験について、20代、60代とともに調査しコレスポネンス分析を行った。その結果を図5に示す。

本解析の結果、寄与率1軸76.42%、2軸18.58%で合計寄与率95.00%の分布が見られた。性別、世代別で見ると大きく3つのクラスターができて

いることが確認できる。男性20代は「舞台鑑賞」や「伝統的工芸品の購入」などを支持した。男性60代以降については「歴史的な建造物を見に行く」、「美術館・博物館に行く」を支持した。女性20代および女性代は「伝統食を食べる」を支持した。それぞれ伝統的な文化であってもどのような項目に関心があるかをより精査する必要があるが、男性は比較的経験主体を求めており、女性は食の体験を求めている事が本調査で示された。

6. 結言

本論は伝統的文化における世代の意識の違いについて秋田県に在住するアンケートを用いた調査を行った結果について報告をした。20代と60代の2つの世代についてAB1対質問を行い6件法による調査を行い、最尤法、プロマックス回転で因子分析を行った結果、固有値1以上で3つの因子が得られた。分析の結果20代、60代ともにそれぞれの世代では因子間相関が高く伝統的文化に対して大きな意識の違いは無いことが明らかとなった。また、20代と60代を同時に因子分析した結果についても同様に因子間相関が高く、この

2つの世代では大きな違いは無かった。これらを抽出した因子得点行列からなる散布図からも相関があることが示された。そこで、クラスター分析を行い、Word法でユークリッド平均距離による階層クラスター分析を行ったところ、3つのクラスターを得た。第1クラスターには46名、第2クラスターには105名、第3クラスターには57名の調査対象が含まれていた。さらにTurkeyのHSD法(5%水準)による多重比較を行った結果これらのクラスターは伝統的文化積極経験因子、伝統的文化積極応援因子、伝統的文化未来伝承因子のすべての因子において第1クラスター<第2クラスター<第3クラスターの順となっており、伝統的文化に関する個人の関心時は年代や性別によるもので無く、各世代の伝統的文化に対する意識の違いであると考えられる。また過去1年でどのような伝統的文化に触れたかという質問に対しては、寄与率1軸76.42%、2軸18.58%で合計寄与率95.00%の分布が見られた。男性は経験主体に強い関心を示し、女性は食文化に対して強い関心を示すことが明らかとなった。

本調査は秋田県内および年代も20代と60代という限定された範囲の調査内容となっている。本調査は今後拡張し、伝統的文化に対する意識の違いはどこに現れるのかを理解した上で、残すべき文化が次世代に継承される枠組みをブランディングの観点から引き続き論究したい。

参考文献

- [1] 文化庁 HP「風流踊」のユネスコ無形文化遺産登録
https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/pdf/93797801_01.pdf
- [2] 文部科学省 HP ユネスコ無形文化遺産「風流踊(ふうりゅうおどり)登録記念式典
https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2023/20230710_2.html
- [3] 秋田県 HP 秋田県の人口と世帯 2023年12月現在
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/9910>
- [4] 本県のユネスコ無形文化遺産(秋田県調べ)
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/69345>
- [5] マイナビ HP「秋田県と言えば何を連想しますか?」
<https://news.mynavi.jp/article/20231205-2828226/>
- [6] 2023年度知的財産制度入門テキスト 第4節 商標制度
- [7] 和田崇(2017)「広島県における神楽の担い手と観光資源化への対応」72, 2 pp.43-55, 地理科学学会
- [8] 塩谷幸子(2008)「家族関係から見る正月料理の継承～都市部・山村漁村部の質的追跡調査から～」4, pp1-12 会誌食文化研究